

コロナ禍でも献血の必要性を伝えたい！ 新宿区赤十字奉仕団落合第一分団の取り組み



浅見分団長
(下落合東町会会長)

コロナ禍において献血はご不安も多いと存じますが、血液はどのような状況でも安定した量の確保が必要です。

そこで、感染症対策を徹底して

地域の皆様に安心してご協力いただけるよう工夫し、地域全体に呼びかけました。

今後も、献血の必要性を一人でも多くの人に伝えていきます。

献血活動

去る令和3年3月15日、落合第一地域センターにおいて献血活動を実施し、平日にも関わらず、37名(献血者は30名)の方にお越しいただきました。こうした力強いご協力に感謝すると同時に、今後も引き続き、献血活動を支えていただきたく、心よりお願い申し上げます。

♥ 血液センターの方から一言

感染症の影響で血液の確保が難しい一方、患者様からの要請は例年同様です。秋頃は少し献血数も取り戻してきましたが、2回目の緊急事態宣言で、再び減少しています。3月に献血の機会をいただき、ありがとうございます。



安心して献血していただくために徹底した工夫は？

- マスクの正しい着用
- 会場入口での検温と手指消毒
- 会場入口では、人と人との距離を保つ目印を設置
- 献血記念品の手渡しの回避
(ご自身に直接お取りいただきました)
- 順番待ちの椅子を間隔をあけて配置
- 班長会議は三密を避けて開催



コロナ禍でも一人でも多くの人に呼びかける工夫は？

- 町会広報紙に献血チラシを挟んで配布
- 献血ポスターの掲示依頼をする際に、赤十字献血センターの資料も配布
(町会掲示板以外にも45か所掲示依頼)
- SNSを活用した呼びかけ
- 在宅勤務をしている人も増えているので、マンションにも周知

